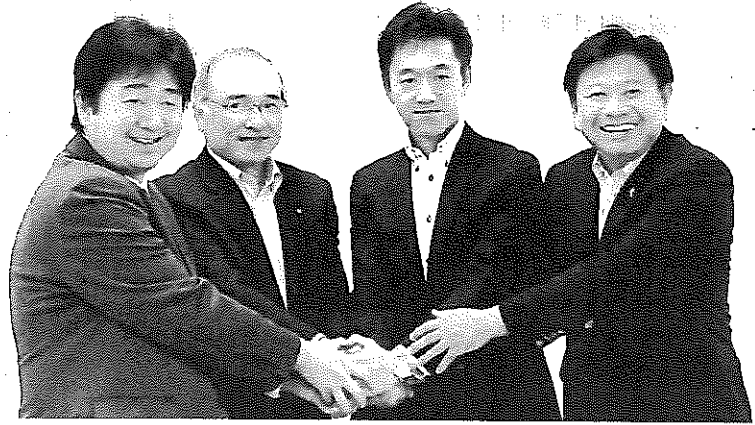


内子町内での木質バイオマス発電に向け握手を交わす関係者 17日午後、内子町役場



内子 間伐材使い発電へ

新会社町・森林組合と協調

林業活性化へ期待の新芽

木材価格の低迷で林業が衰退する中、木質ペレット製造の内藤鋼業（内子町五十崎）と新エネルギー発電などに取り組む洗陽電機（神戸市）は17日、内子町役場で会見し、新会社を立ち上げ間伐材や低質材を利用した木質バイオマス発電に取り組むと発表した。同町寺村の町有地を有償で借りて発電所を建設。来年6月に発電開始予定。会見には稲本隆寿町長の

ほか、材を供給する内子町森林組合で組合長を務める岡田志朗県議も出席。スクラムを組んだ取り組みで林業活性化や雇用創出が期待できるとした。

計画によると、新会社が運営する発電所は定格出力1115瓩。ドイツと米国の発電設備計7基を備えた態勢で年間約5700トンの木質ペレットを消費し年間約811万瓩時を送電する。一般家庭約2500世

帯の電力消費量に相当し、四国電力に全量売電する方向で調整中という。

初期投資額は12億円。発電設備の設計、施工などは洗陽電機側が行い、木質ペレット製造は内藤鋼業側が担う。新会社は地元企業の出資や融資を受け年内にも発足させたい意向。発電所の土地は町有地の約800平方メートルで、町森林組合の小田原木市場や内藤鋼業の木質ペレット工場に

隣接している。

会見で洗陽電機の乾正植社長は「地域一体のビジネス。地域を元気にするのメス。内子で上げることができてうれしい」とあいさつ。内藤鋼業の内藤昌典社長は「ハード面の課題は関係者の皆さんでクリアしたい。来年稼働できるように頑張る」と意気込みを語った。稲本町長は「内子の8割は山林。木材価格低下の中で、山に価値を生み出したのは共通の願いと述べ、岡田組合長は「小田地域は人口減少問題を抱えており、ありがたく思う」と感謝した。

（中井有人）